サマーピラミッド

Summer Pyramid

国語 小5

インパラ Impala

もくじ

回	単元名	ページ	学習日
1	ぼくらは機関車太陽号	2〜5	月　日
2	科学の考え方・学び方	6〜9	月　日
3	アメンボ号の冒険	10〜13	月　日
4	言葉の虫めがね	14〜17	月　日
5	若葉よ来年は海へゆこう この部屋を出てゆく	18〜21	月　日
6	ぼくらの山の学校	22〜25	月　日

第1回 ぼくらは機関車太陽号

—学習内容—
・漢字の成り立ち
・漢字の部首　・物語文

学習日／　月　日

遠足のグループ分けをしたいと思います。どうやって分けたらいいかな。同じグループになる人を、線を引いて囲んでみよう。（先生が手に持っている絵と、ゼッケンの漢字をくっつけて考えてみるといいよ。）

1 〈漢字の読み書き〉 (1)〜(4)の漢字は読みがなをひらがなで、(5)〜(8)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) 一週間ほど家を留守にする。 □

(2) 家の周囲を散歩する。 □

(3) 起こったできごとを順序立てて話す。 □

(4) きのうの天気予報では雨のふる確率は50％（パーセント）だった。 □

(5) ムイシキのうちに、いつもの道をたどって帰る。 □

(6) 来週の遠足のジュンビをする。 □

(7) たるまないようにロープをぴんとハる。 □

(8) 国語のセイセキが上がる。 □

2 〈漢字の成り立ち〉 次の説明にあてはまるものをア〜エから選び、——線で結びなさい。

(1) 漢字を組み合わせて、新しく別の意味を表したもの。 ・ア 象形（しょうけい）文字

(2) 漢字の部分の一方が意味を、他方が音を表したもの。 ・イ 指事（しじ）文字

(3) ことがらを点や線の記号で表したもの。 ・ウ 会意（かい）文字

(4) ものの形をかたどって作ったもの。 ・エ 形声（けいせい）文字

3 〈漢字の成り立ち〉 次の漢字の成り立ちをア〜エから選び、記号で答えなさい。

(1) 花 □　(2) 味 □　(3) 馬 □

(4) 男 □　(5) 門 □　(6) 二 □

ア 象形文字　イ 指事文字
ウ 会意文字　エ 形声文字

4 〈漢字の部首〉 次の漢字の部首を□に書き、部首名をひらがなで（　）に書きなさい。

(1) 部 □（　）　(2) 関 □（　）

(3) 菜 □（　）　(4) 道 □（　）

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「先生。きょねんは、どうして歩き遠足じゃなかったんですか？運動会のやりかたはきょねんからかわったのに」

「人間はね、いままでの習慣や考えかたから、すぐにはぬけだせないものだよ。運動会のカラーラインや、図案手ぬぐいなどなら、やりやすいけど、歩き遠足になると、ちょっとちがう。きみたちだって、さいしょ、歩き遠足に反対したろ」

「う、うん」

さすがの健三が頭をかき、弘たちは①赤くなり、今宮先生はにこっとしてあとをつづけた。

「校長先生はね、先生たちみんなが、新しいやりかたになれるのを、一年間まったんだね。それと、どういう先生がいるかということをしるためにね」

「あ、そうか。だから、チョコレート校長はわたしに『②一年まて』と、いったんだ」

と、ゆかりがさけび、健三も弘も孝も、校長先生が「まつんだな、まあ一年」といったわけが、はじめてわかった。

ゆかりの声はきゅうご班のうしろの連中にもきこえたらしく、その連中は列をくずしてまえのほうにあつまり、幸夫もあせだらけの顔を信彦とふたりして今宮先生のほうにむけ、健三はまたたずねた。

「じゃ、先生たちは校長先生のやりかたどおりにやるわけですか？」

「そういう先生もいるし、そうでない先生もいるよ。でも、もともと人間はひとりひとりがちがっているもので、校長先生は団地の遊び場へ遊びにいくし、ほかにもいく先生がいるけど、野上先生もぼくも一度も遊びにいったことがない。だけど、ぼくたちは③それでいいとおもってるんだ」

たしかに人間はひとりひとりちがう、と弘は健三や孝や知也のことをおもい、今宮先生は自分のいっていることがみんなにつたわっているかどうか、たしかめるようにみんなの顔をみたあと、話しつづけた。

「そのちがってる人たちが、一つのことをやろうとするには、ひとりひとりがじゅうぶんなっとくしなきゃならない。校長先生ひとりが歩き遠足をやるといったって、ほかの先生がみんな、そっぽをむいたら、やれないだろう。むりやりやったところで、きょうのように［　　］遠足になりやしない。歩き遠足のことを考えたのは、校長先生ひとりじゃないんだよ」

「そうよ。今宮先生はなん年もまえから、歩き遠足をやろう、といってきたのよ。運動会のカラーラインもやっぱりなん年もまえからね」

と、野上先生がいった。

「へーえ」

弘たちは④おもわず声をあげた。歩き遠足のアイデアさえも、校長先生ひとりのものではなかったのだ。しかし、健三はもう一つ、つっこんだ。

「なん年もまえからいってきたのに、じっさいにやれたのは、運動会はきょねんから、歩き遠足はことしからというのは、どうしてですか？」

「なかなか、きびしいな」

今宮先生はわらい、そしてまじめな顔にもどっていった。

「ぼくの考えに賛成の人が毎年ひとりかふたりずつ、ふえていったところへ、いまの校長先生がやってきたんだ。校長先生とぼくとは、ちがうところもあるが、よくにた考えかたをするところもある。だから、ことし、歩き遠足がやれたんだね。さっきいったこととはぎゃくのようだけど、人間はひとりひとりがちがう一方、きみたちがたいてい木にのぼりたがるように、あんがいおなじことを考えるものなんだな」

弘はおもわず今宮先生の顔をみた。いまの先生のことばのむこうに、弘は⑤人間の世界と、おとなの世界のはしっこがちらりとみえたような気がしたのだ。

（古田足日『ぼくらは機関車太陽号』フォア文庫　岩崎書店）

問一　――線①「赤くなり」とありますが、ここでの弘たちの気持ちとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア　はらだたしい。　**イ**　うれしい。
ウ　はずかしい。　**エ**　悲しい。

［　　］

問二　――線②「一年まて」とありますが、校長先生が歩き遠足を一年まつようにいったのはなんのためですか。よいものを次の**ア**～**オ**から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　どの先生にも校長先生と同じ考え方をしてもらうため。
イ　ほかの先生たちがどういう考えなのかを校長先生がしるため。
ウ　先生たちに校長先生のやり方になれてもらうため。
エ　校長先生の性格を生徒にしってもらうため。
オ　校長先生が生徒たち全員と仲良くなるため。

［　　］・［　　］

問三　――線③「それでいいとおもってる」とありますが、今宮先生の考え方としてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア　できれば校長先生のやりかたにしたがったほうがいい。
イ　ひとりひとり、自分の考えにしたがって行動すればいい。
ウ　気に入らなかったらむりに仲良くしなくてもいい。
エ　なっとくしない人がひとりぐらいいてもしかたない。

［　　］

問四　［　　］にあてはまることばとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア　たのしい　**イ**　たいくつな
ウ　つかれる　**エ**　わからない

［　　］

問五　――線④「おもわず声をあげた」とありますが、ここに表れている気持ちとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア　不満と反感。　**イ**　うれしさと期待。
ウ　うたがいと抗議。　**エ**　おどろきと感心。

［　　］

問六　――線⑤「人間の世界と……気がした」とありますが、弘は今宮先生のことばのどんなところから、このような気持ちになったのですか。次の［　　］にあてはまることばを書きなさい。

人間はひとりひとり［　　］ものだという一方で、［　　］ものだという、ぎゃくの内容をいっているところ。

第2回 科学の考え方・学び方

—学習内容—
・ことわざ
・慣用句（かんようく）
・説明文

学習日／　月　日

「仲が悪い」ということを「水と油のようだ」なんて言うけれど、せんざいは「水」と「油」を混ぜるはたらきをしているんだって。さおにかかった、ぼくと弟のせんたくもの。混ざってしまっているけれど、ぼくのはどれ？　ぼくのものには「油」、弟のものには「水」が入るよ。線を引いて分けてみよう。

1 〈漢字の読み書き〉 (1)～(4)の漢字は読みがなをひらがなで、(5)～(8)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) ジャムをガラスの容器に入れる。［　　］

(2) 桜貝を細工に使った箱を買う。［　　］

(3) 志をつらぬいて夢をかなえる。［　　］

(4) 授業の開始を告げる。［　　］

(5) 漢字をハンプクして書いて覚える。［　　］

(6) フクザツな計算に頭をかかえる。［　　］

(7) 政党にショゾクせずに選挙に立候補する。［　　］

(8) サイガイにみまわれる。［　　］

2 〈ことわざ〉 次のことわざと似た意味のことばをア～ウから選び、――線で結びなさい。

(1) 急がばまわれ　・　・ア 五十歩百歩

(2) どんぐりのせいくらべ・　・イ せいては事をしそんずる

(3) ちょうちんにつりがね・　・ウ 月とすっぽん

3 〈ことわざ〉 次の□に漢数字をあてはめて、ことわざを完成させなさい。

(1) 石の上にも□年

(2) □階から目薬

(3) 早起きは□文の徳

(4) □転び□起き

4 〈慣用句〉 次の□に［　　］から漢字を選んで書き入れ、慣用句を完成させなさい。

(1) □がいたい

(2) □におえない

(3) □が知らせる

(4) □をしめる

(5) □が高い

(6) □が出る

［虫　鼻　耳　足　手　味］

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

地上に人類が現れて以来、地球環境は汚染され続けてきたと極論[*1]を言う人もいます。実際、人類の手で多くの種が絶滅させられました。しかし、①人類も自然の中に生まれてきた生物の一つですから、その活動が環境に影響を与えるのは必然[*2]なのかもしれません。

ただ、人類は生産活動を行うという点で他の生物とは異なった存在であり、自然では作り得ない物質を生産し、その大量消費を行うようになったのも事実です。その結果、人類の活動が地球の環境が許容[*3]できる能力と匹敵[*4]するほどのレベルに達しており、自然では浄化[*5]しきれない②人工化合物があふれ、新しい生命体を作る試みすらし始めています。人類は、意識しているかどうかは別として、環境を根本的に変えかねない事態を招いているのです。

かつては、③「環境は無限」と考えられていました。[　　]、環境の容量は人類の活動に比べて圧倒的に大きく、すべてを吸収処理してくれると思ってきたのです。だから、廃棄物を平気で海や空に捨て、森林を切り、海や湖を埋め立て、ダムを造ってきました。しかし、環境が無限でないことを、さまざまな公害によって学んできました。また、陸にも海にも砂漠化が進み（海にも砂漠化が進み、海藻が枯れています）、自然の生産力が落ち始めています。確かに、このままの消費生活を続けると、地球の許容能力を越え、カタストロフィー[*6]が起こるかもしれません。人類の未来は、環境問題の危機をいかに乗り切るかにかかっていると言っても過言[*7]ではないでしょう。二一世紀は、まさにこの課題に直面する時代となるに違いありません。

この環境問題の原因は、無責任に大量生産・大量消費の社会構造にしてしまった④私たちの世代の責任であると考えています。自分たちは優雅で便利な生活を送りながら、その「⑤借金」を子孫に押しつけているのですから。借金の最大の象徴は、原子力発電所から出る大量の放射性廃棄物[*8]でしょう。電気を使って生活を楽しんでいるのは私たちですが、害にしかならない放射性廃棄物を一万年にわたって管理し続けねばならないのは、私たちの子孫なのです。あるいは、熱帯林を切って大量の安い紙を使っているのは私たちであり、表土が流されて不毛[*9]の地となってしまった大陸や島に生きねばならないのは子孫たちなのです。環境問題は、すべてこのような構造をもっています。この点を考えれば、せめて子孫たちの負担を少しでも軽くするような手だてを打っていかねばなりません。

（池内了『科学の考え方・学び方』岩波書店）

＊1極論＝自分の意見をはっきりさせるために極端なことを言う。
＊2必然＝かならずそうなること。
＊3許容＝そこまではしかたないと認めること。
＊4匹敵＝力が同程度であること。
＊5浄化＝よごれを取りのぞいてきれいにすること。
＊6カタストロフィー＝大きな悲劇。
＊7過言＝言い過ぎ。

＊8放射性廃棄物＝原子力施設の運転にともなって発生する使用済み核燃料などをいう。
＊9不毛の地＝やせていて作物も草木も育たない土地。

問一 ——線①「人類も自然の中に生まれてきた生物の一つ」とありますが、人類は他の地球上の生物とはどんな点で異なっていますか。文中から十一字で書きぬきなさい。

問二 ——線②「人工化合物」を言いかえたものとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 自然では作り得ない物質。
イ 大量消費される物質。
ウ 自然の中に生まれてきた物質。
エ 新しい生命体を作る物質。

問三 ——線③「『環境は無限』と考えられていました」とありますが、(1)この考えにより人類はどんなことをしてきましたか。(2)環境が無限でないことは何から学びましたか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

(1) 廃棄物を[　　]に捨て、[　　]を切り、[　　]や[　　]を埋め立て、[　　]を造ってきた。

(2) さまざまな[　　]

問四 [　　]にあてはまることばとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア しかし　**イ** つまり
ウ だから　**エ** しかも

問五 ——線④「私たちの世代」と反対の意味で使われていることばを同じ段落の文中から六字で書きぬきなさい。

問六 ——線⑤「借金」とありますが、これを言いかえたことばを文中から七字で書きぬきなさい。

問七 この文章の内容と合わないものを次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい

ア 電気を使って便利で楽しい生活を送っているかげでは、放射性廃棄物が大量に産み出されている。
イ 熱帯林を切り開くことができなかった結果、子孫たちは不毛の地となった大陸や島に住まなければならなくなる。
ウ 人類の活動が地球環境に影響を与えることは、自然の中に生まれてきた生物としては必然といえる。
エ 人類の未来は、環境問題の危機をいかに乗り切るかにかかっていると言っても過言ではない。

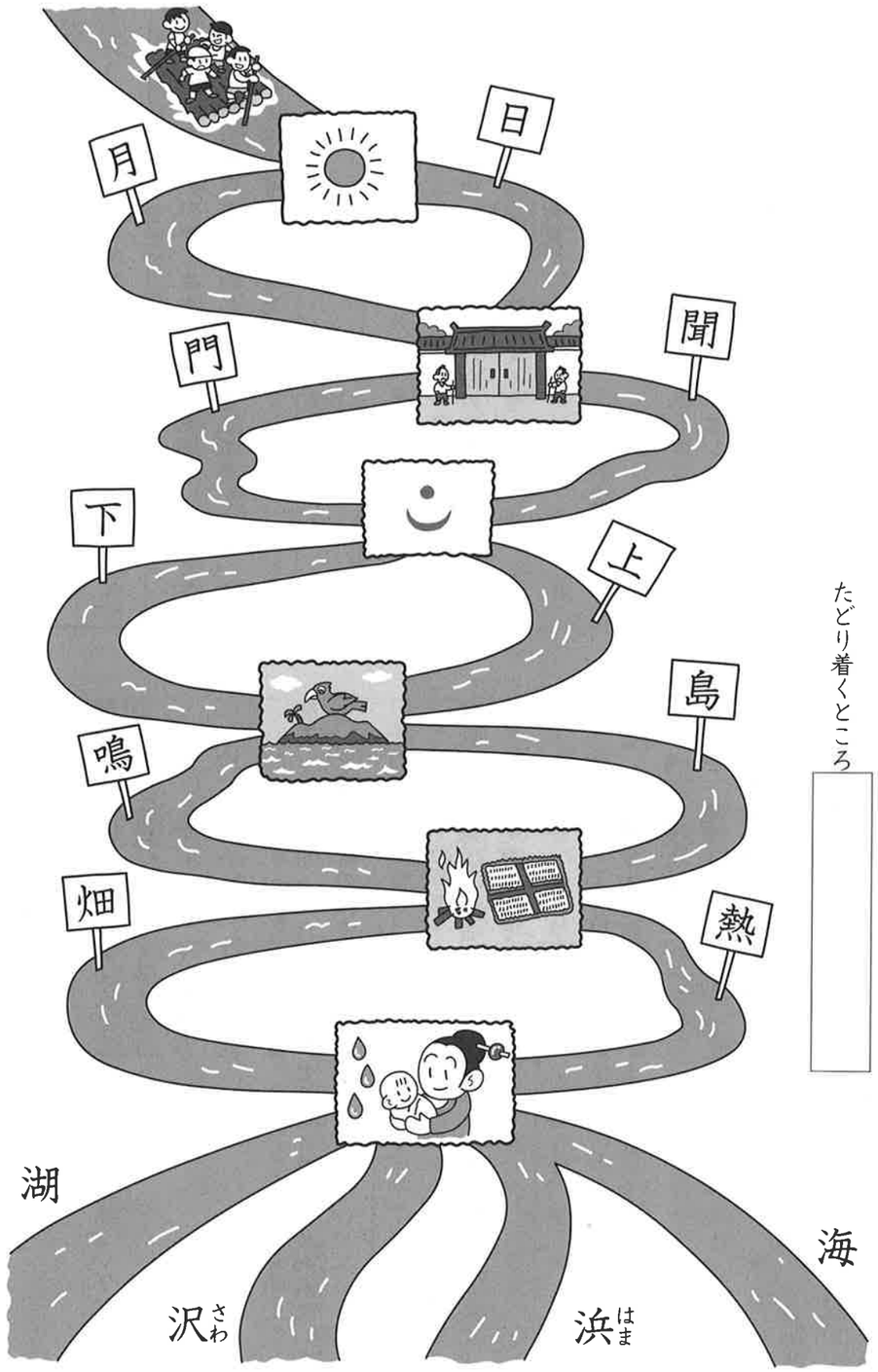
第3回 アメンボ号の冒険（ぼうけん）

—学習内容—
〔・ことばの組み立て ・多義語 ・物語文〕

学習日／　月　日

いかだに乗って川を下っていこうと思います。どういうふうに進めばいいかな？　進む方へ矢印を書こう。どこにたどり着くかな？

たどり着くところ



1 **〈漢字の読み書き〉** (1)～(4)の漢字は読みがなをひらがなで、(5)～(8)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) 走ってきた勢いで人にぶつかってしまった。

(2) 父と姉は食べ物の好みが似ている。

(3) 正午現在の気温をはかる。

(4) 努力が評価されてうれしい。

(5) 多くのジョウホウを集める。

(6) 作文のコウセイを考える。

(7) 救急の手当てについてのコウエンを聞く。

(8) 初めに結ろんをノベてから、その理由を説明する。

2 **〈ことばの組み立て〉** 次のことばを組み合わせてできる複合語の読みをひらがなで書きなさい。

(1) 書く＋上げる

(2) うれしい＋泣く

(3) 帰る＋支度（したく）

3 **〈ことばの組み立て〉** 次の複合語はどんなことばが組み合わさってできていますか。元のことばを書きなさい。

(1) 安売り

(2) 勝ち負け

4 **〈多義語〉** 次の——線部のことばの意味をア～ウから選び、記号で答えなさい。

(1) たくさんの本が山になっている。

(2) 明日のテストに山をかける。

(3) 患者（かんじゃ）の病状は、今日明日が山だ。

ア　万一の幸運をあてにすること。　イ　高くつみあげたもの。
ウ　ものごとの成否（せいひ）を決める重要なところ。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ねじまがりの滝から三時間ほどで①電車の鉄橋をくぐり抜けた。そのあたりではいつも釣りをしたりモクズガニをとったりしているのだが、そういうなじみの川岸を眺めながら川のまんなかを通過していくのは、妙に誇らしい気分だった。

川面すれすれにオオミズナギドリが飛んでいくのを見た。同時にそのあたりから海の匂いがひろがってきた。左右の川岸にもやってある海苔とり用の*2ベカ舟や小型漁船が増えてきた。そこで仕事している人が手を休めて「おお、びっくりした！」などと話しかけてくるのがうれしかった。

河口はときおり*3浚渫船が入ってきて底を掻いていくので、竹竿が効くようになった。海の匂いがするようになるとなんだか気がせいてきた。

②四人全員で竹竿を突いた。

うまい具合に引き汐がはじまる時間のようだった。これが上げ汐だと河口からかなり奥まで汐が上がってくるので、川は逆流し、いかだはとても海に出ていけない。

川の流れと引いていく汐で、アメンボ号は小気味のいいスピードで海に出た。

最初の波がアメンボ号を左右にゆさぶったとき、③ぼくたちは全員で歓声をあげた。

波は巨大な横一文字型になって、押しよせてくる。この横一列になって波と波の間隔も広くなる独特の形は遠浅の海岸では引き汐時に見られる典型的なものだった。

〝おんぼ波〟と地元の人は言っていた。

「おんぼ波だ。気持ちいい」

オボが元気のいい声で言った。おんぼ波とオボの語感が似ているのでぼくたちはそのことを笑いあった。④波が押しよせるときに四人で力と呼吸を合わせて思いきり竹竿を突く必要があった。うまくやらないとアメンボ号は波に押されて横をむいてしまう。ここが最後の勝負どころだった。

浅瀬を抜けるとおんぼ波はなくなって、普通の小さな波になった。風が吹いてきて果てしなく気持ちがよかった。ずっと竹竿を突いてきたのでおそろしく⑤疲れてもいたが、海に出たことでみんな気持ちが*4高揚していた。

やがてアメンボ号は水脈（海の中の川のような流れのある筋）に入り、もう竿を突かなくてもいいようになった。引き汐のときの水脈の流れは川と同じだった。

「さあ、降りよう」

オボが決断を下す。そのままアメンボ号に乗っていたらはるかな沖に流されてしまうのだ。

濡れたリュックサックを背負って水脈を出た。そのあたりの水脈は花見川と同じくらいの幅で沖にむかっている。水脈では胸ぐらいの深さだったが、そこからすこし横に歩くとたちまち腰ぐらいに浅くなり、汐の流れもゆるやかになる。四人ならんで沖に流れていくアメンボ号を見送った。

「ぼくたちのアメンボ号はどこまで行くのかな？」

フーちゃんが⑥どうにももったいなくてしかたがない、というロぶりで言った。

「きまってるじゃないか、太平洋だよ」

中島君が言い、オボが、

「アメリカ、アメリカ！」

と大声で言った。

（椎名誠『アメンボ号の冒険』講談社）

*1もやう＝くいなどに船をつなぐ。
*2ベカ舟＝うすい板で造った一人乗りの小舟。
*3浚渫＝水底の土砂や岩石をほって取りのぞくこと。
*4高揚＝精神や気分が高まること。

問一 ——線①「電車の鉄橋をくぐり抜けた」とありますが、主人公の「ぼく」たち四人は、何をしているところですか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

アメンボ号という［　　］に乗って、［　　］を下り、［　　］へ出ようとしているところ。

問二 ——線②「四人全員」とありますが、「ぼく」以外の三人は、だれですか。文中からそれぞれ書きぬきなさい。

［　　］・［　　］・［　　］

問三 ——線③「ぼくたちは全員で歓声をあげた」のは、なぜですか。もっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 引き汐になったので、川が逆流せずにすんだから。
イ 竹竿を突いたいきおいでアメンボ号がごうかいにゆれたから。
ウ だんだんと海の匂いがして海に近づいてきたから。
エ 河口から海へと出たことが実感できたから。

［　　］

問四 ——線④「波が押しよせるときに……竹竿を突く」とありますが、なんのために竹竿を突くのですか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

アメンボ号が［　　］に［　　］をむいてしまわないようにするため。

問五 ——線⑤「気持ちが高揚していた」とありますが、このときの「ぼく」たちについて述べたものとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア どこまで流されてしまうのかを考え、不安になっていた。
イ 目的をなしとげ、こうふんしていた。
ウ もうすぐ冒険が終わることを考え、がっかりしていた。
エ 疲れきって何も考えられなくなっていた。

［　　］

問六 ——線⑥「どうにももったいなくてしかたがない」とありますが、どんなことをもったいないと思っているのですか。もっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 冒険をともにしたアメンボ号を沖へ流してしまうこと。
イ アメンボ号を降りてすぐに汐の流れがゆるやかになったこと。
ウ アメンボ号でアメリカへ行くという機会をのがしたこと。
エ 冒険のとちゅうでアメンボ号から降りてしまうこと。

［　　］

第4回 言葉の虫めがね

—学習内容—
・同音異義語（どうおんいぎご）
・説明文

学習日／　月　日

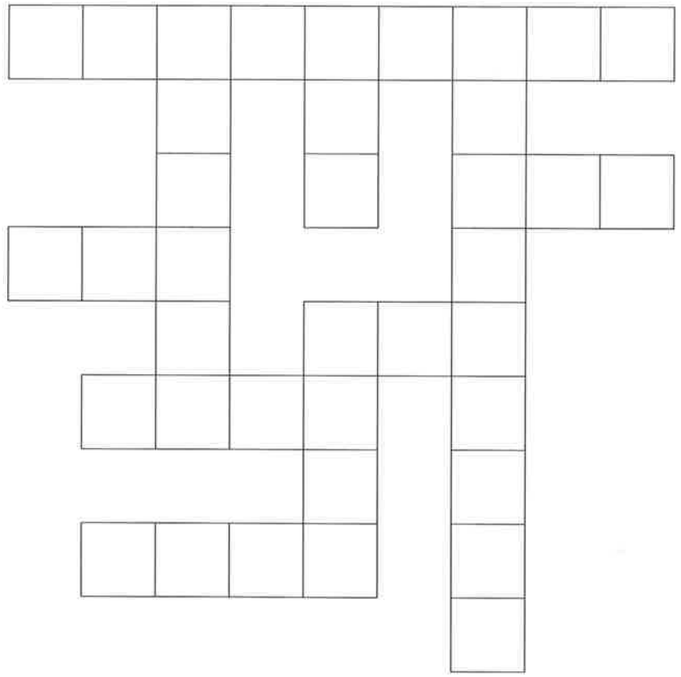
上の□のことばを□にあてはめよう。
最後に一つだけ、使われずに残るのは、どのことばかな。

〔三文字〕
ぬりえ（ぬり絵）
きつね
ゆうひ（夕日）
つきみ（月見）
きもの（着物）

〔四文字〕
たいまつ
こなゆき（粉雪）
きつつき

〔六文字〕
ねこのひたい

〔九文字〕
まかぬたねははえぬ
（まかぬ種は生えぬ）
きつねにつままれる



残ることば

1 〈漢字の読み書き〉 (1)～(4)の漢字は読みがなをひらがなで、(5)～(8)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) 姉の卒業証書を見せてもらう。
(2) 試合のあとで勝因をふりかえる。
(3) 芸術を通して世界の人々と交流する。
(4) 別の方法を提案する。
(5) サンセイの意見が大多数をしめる。
(6) 友人は大事なザイサンだ。
(7) 赤と青の絵の具をマぜてむらさき色を作る。
(8) 友だちに本を力してもらった。

2 〈同音異義語〉 次の——線部のかたかなに合う熟語（じゅくご）をア～ウから選び、記号で答えなさい。

(1)
① 低いタイセイからスタートする。
② 社会主義タイセイの国。

ア 体制　イ 大成　ウ 体勢

(2)
① コウセイに名を残す。
② コウセイな取り引きをする。

ア 後世　イ 公正　ウ 構成

(3)
① 鉄ぼうなどのキカイ体そう。
② あせらずに次のキカイを待つ。

ア 機械　イ 機会　ウ 器械

3 〈同音異義語〉 次の漢字を組み合わせて、二字の同音異義語を二つずつ作りなさい。（同じ漢字を二度使ってはいけません。）

(1) 医 以 員 院 委 印（イイン）
(2) 開 会 回 転 点 店（カイテン）
(3) 伝 電 気 帰 記 田（デンキ）
(4) 固 庫 定 底 湖 低（コテイ）

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ことわざというのは、古くからあるぶん、現代生活とかけ離れてしまっているような言葉もずいぶんある。①「濡れ手で粟」といったって、「粟」を見たことのない若い人も多いだろう。以前、高校で教えていたとき、こんなことがあった。

「えー、濡れ手で粟ってどういう意味ですか？　○○君」

「はい、いくらがんばっても報われないっていうか、努力してもダメってことだと思います」

「は？」

「だって、濡れた手でアワをつかもうとしても、消えちゃうじゃないですか」

彼は「泡」だと思っていたのである。確かに、たとえばバスバブルでモコモコできた泡を、手でつかむことはできない。洗濯の場面を思い浮かべてもいいだろう。たいてい、手は濡れているわけで、つじつまがあってしまう。なるほど。いや、感心している場合ではない。

「えー、アワというのはバブルのことではなくて、穀物の粟のことですね。濡れた手で粟をつかむと、たくさんくっついてくるように、楽をして多くの利益をあげることをいいます」

②この手の思い違いというのは、けっこうあるもので、「*1糠味噌にクギ」だと思っていた生徒もいれば（手ごたえのない感じとしては、糠味噌も悪くないなあ）、*2「狐につつまれる」だと思っていた生徒もいれば（想像すると、なかなかおかしくて怖い）、「*3五十歩百歩とは、ものすごい違い」だと思っていた生徒もいた（確かに倍の違いではある）。

単なる思い違いの場合もあるけれど、そのまちがいが、それなりに説得力をもって普及してゆくこともある。その背景を考えることは、とても興味深い。

最後にこんな例を一つ。これもまた生徒との会話である。

「先生、どこに住んでるの？」

「町田よ」

「へーっ、いいなあ、デパートもたくさんあるし、便利でしょう」

「まあまあね。③住めば都ってとこかな」

「そうだよね。町田だって、いちおう東京都だもんね。私も将来は、絶対に都会に住みたいんだ」

「ん？」

彼女は、「住めば都」を「住むんだったら、都会」という意味だと思っているらしい。私の勤めていた高校は神奈川県の橋本というところにあり、かなり田舎だった。その橋本に「出てくる」という感覚の、さらに不便なところから、通ってくる生徒も多い。若い彼らの、都会への憧れは大きかった。

「住めば都っていうのはねえ、住みなれれば、どんなところでも、自分にとっては都のように住み心地がよくなるっていう意味なのよ」

「えーっ、そうなんだ。でもそんなの嘘だよ。私、自分の住んでいるところが都だなんて、全然思わないもん。やっぱり、住むんだったら東京がいい！」

嘘、と言いきられてしまうと、ことわざも形無しである。

（俵万智『言葉の虫めがね』角川書店）

*1 糠味噌にクギ＝正しくは「糠にクギ」。手ごたえがないこと。

*2 狐につつまれる＝正しくは「狐につままれる」。どうしてそういう結果になったのか一向に分からない様子。

*3 五十歩百歩＝たいして違いのないこと。

問一 ――線①「濡れ手で粟」について、次の(1)～(3)に答えなさい。

(1) このことわざについて質問された生徒は、どんな思い違いをしていましたか。次の□にあてはまることばを、文中から書きぬきなさい。

「アワ」という言葉を聞いて、穀物の□ではなくバブルの□だと思い違いをした。

(2) (1)の思い違いによって、この生徒はこのことわざをどういう意味だと解釈していましたか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

□は手でつかむことはできないことから、いくらがんばっても□という意味。

(3) このことわざの正しい意味を文中から書きぬきなさい。

問二 ――線②「この手の思い違い」を言いかえた次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

それなりに□があっていて、□をもっているまちがい。

問三 ――線③「住めば都」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 生徒はこのことわざをどんな意味だと思っていましたか。文中から書きぬきなさい。

(2) このことわざの正しい意味を文中から書きぬきなさい。

問四 この文章の内容と合うものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ことわざが本来の意味とちがって受け入れられているのにはそれなりの背景があり、興味深いものである。

イ ことわざはそれぞれの人が自由に意味を考えて使うことでよりよく変化していく。

ウ ことわざの意味をまちがって覚え、使っている若者たちのすがたは非常にはずかしい。

エ ことわざは古くからあるぶん、現代の生活には合わないので、若者たちが使う必要はない。

第5回 若葉よ来年は海へゆこう この部屋を出てゆく

—学習内容—〔・詩の表現 ・詩〕

学習日／　月　日

「なつやすみ」の五文字を頭に置いて、短い詩を作ろう。それができたら、今度は好きなことばでやってみよう。きちんとした内容にならなくてもかまわないよ。少しくらい変なところがあったほうがおもしろいしね。「ん」で始まることばがある場合は、「ん」の前に一字置いて、二文字目が「ん」になるようにしよう。（「きんようび」「でんしゃ」など。）

な　みきみちを
つ　きのひかりが
や　さしくてらし
す　なはままでの
み　ちしるべ

な　つ　や　す　み

○　○　○　○　○　○　○　○　○　○

1 〈漢字の読み書き〉 (1)～(4)の漢字は読みがなをひらがなで、(5)～(8)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) 家ちくの飼料を改良する。
(2) 兄は責任感が人一倍強い。
(3) 故意にぶつかったわけではないが、しっかりあやまった。
(4) おぼれかかった人を救う。
(5) ハンザイが減ることを願う。
(6) ワタがしのような雲がうかんでいる。
(7) おこづかいをゾウガクしてほしい。
(8) 仕事のテキセイを調べる。

(1)

◆詩の表現…さまざまな表現のくふうがこらされています。

比ゆ（たとえ）＝別のものにたとえることで、イメージを伝える方法。

① 直ゆ＝「まるで」「ようだ」などのことばを使ってたとえる。
・近づく壁のようなハードル

② 隠ゆ＝「ようだ」などのことばを使わずにたとえる。
・君のえがおはひまわりだ

③ ぎ人法＝人でないものを人に見立てて表現する。
・木々がおじぎをくり返していた

(2) 倒置法＝ことばの順序をふつうとは逆にして、印象を強める方法。
・めざすのだ　あの高みを

(3) 体言（名詞）止め＝文の終わりを体言（名詞）で終えて、おもむきを残す方法。
・ああ、豆ほどの白金の太陽

(4) くり返し（反復法）＝同じことばをくり返して、印象を強める方法。
・近づいてくる／近づいてくる

(5) 対句＝同じリズムで、似た内容や対立する内容のことばをならべて、リズムを整え、印象を強める方法。
・雨ニモマケズ／風ニモマケズ

(6) 省略＝ことばを省いて、印象を強める方法。
・やがてやみがおとずれると……

文章たんけん

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

若葉よ来年は海へゆこう　　金子光晴

絵本をひらくと、海がひらける。若葉にはまだ、海がわからない。

若葉よ。①来年になったら海へゆこう。海はおもちゃでいっぱいだ。

うつくしくてこわれやすい、ガラスでできたその海はきらきらとして、揺れながら、*1風琴のようにうたっている。

海からあがってきたきれいな貝たちが、若葉をとりまくと、若葉も、貝になってあそぶ。

若葉よ。来年になったら海へゆこう。そして、②じいちゃんもいっしょに貝になろう。

（『金子光晴全集　第四巻』中央公論社）

*1風琴＝オルガンまたはアコーディオンのこと。

問一 ――線①「来年になったら」とは、言いかえるとどうなったらということですか。もっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア もう少し大きくなったら。
イ 海が好きになったら。
ウ 絵本を読めるようになったら。
エ おもちゃがほしくなったら。

問二 ――線②「じいちゃんもいっしょに貝になろう」とはどういうことを言っていますか。もっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 沖に出て遊ぶこと。　**イ** 絵本を読むこと。
ウ 浜辺で遊ぶこと。　**エ** 海辺に住むこと。

問三 「じいちゃん」の「若葉」に対する気持ちとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア ひとりで遊べるようになったことに感心する気持ち。
イ 大人になり、自分から離れていくことを残念がる気持ち。
ウ これから先の人生がどうなるか心配する気持ち。
エ とてもかわいく大切で、成長を楽しみに思う気持ち。

問四 この詩の表現について説明したものとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 呼びかけやたとえを用いて、作者の願いや思いを深く印象づけている。
イ 同じことばをくり返し使うことで、現実に起きた出来事をわかりやすくえがいている。
ウ 時間の流れにそって自分の見てきた風景をていねいにえがくことで、印象が強まっている。
エ 一文を長くし、一気に読ませることによりリズムが生まれ、作者の心情がありありと感じられる。

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部屋を出てゆく　　関根弘

この部屋を出てゆく
ぼくの①時間の物指しのある部屋を

書物を運びだした
机を運びだした
衣物を運びだした
その他ガラクタもろもろを運びだした
ついでに恋も［A］

時代おくれになった
炬燵や
*1瀬戸火鉢
を残してゆく
だがぼくがかなしいのは②むろん
そのためじゃない
大型トラックを頼んでも
運べない思い出を
［B］ゆくからだ

がらん洞になった部屋に
思い出をぜんぶ置いてゆく
けれどもぼくはそれをまた
かならず
とりにくるよ
大家さん！

*1瀬戸火鉢＝灰を入れ、炭火をおこして、暖房や湯沸しなどに用いる道具。

（『関根弘詩集』思潮社）

問一 ――線①「時間の物指し」とは何のことですか。詩の中から三字で書きぬきなさい。

問二 ［A］にあてはまることばを詩の中から五字で書きぬきなさい。

問三 ――線②「むろん」の意味としてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア もしかすると。　**イ** 言うまでもなく。
ウ 考えてみると。　**エ** おおまかに言えば。

問四 ［B］にあてはまることばとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 少しだけ残して　**イ** 少しだけ持って
ウ いっぱい残して　**エ** いっぱい持って

問五 この詩にえがかれている「ぼく」の姿としてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

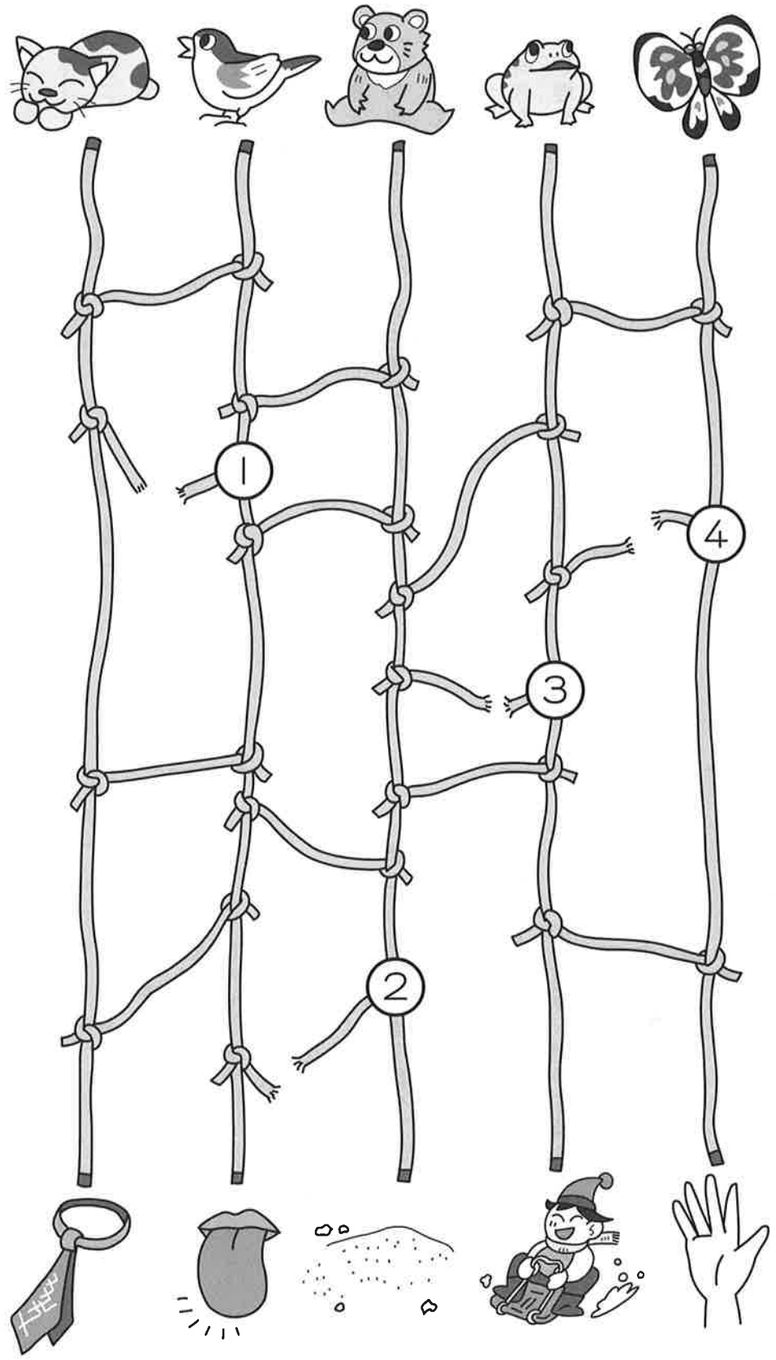
ア 過去への未練はあるが、新たに出発しようという前向きな姿。
イ 過去の楽しかった生活からまったくぬけ出せずにいる姿。
ウ 過去をすべて捨て、別の人生を歩もうとしている姿。
エ 過去の生活を後悔し、悲しんでばかりいる姿。

第6回 ぼくらの山の学校

—学習内容— 同訓異字（どうくんいじ） 物語文

学習日／　月　日

動物の名前がかくれていることばはたくさんありますね。上と下のことばを組み合わせて、別のことばになるようにするには、①～④のどこをつないだらよいかな。（上のことばが上につくとは限らないので注意。）



つなぐところ

1 〈漢字の読み書き〉

(1)～(4)の漢字は読みがなをひらがなで、(5)～(8)のかたかなは漢字に直して書きなさい。

(1) クラス対こうのバスケットボールの試合で圧勝する。

(2) 仮説が正しいかどうかを実験で確かめる。

(3) この建物（たてもの）は大勢の人の寄付によって建てられた。

(4) ひみつを守るというのが、この話を教える条件だ。

(5) 文章の一部をショウリャクする。

(6) この植物にはドクがある。

(7) どの料理を注文しようかマヨってしまう。

(8) ボウフウがふき、木がたおれた。

2 〈同訓異字〉

次の漢字を正しく使っているものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

(1) 開ける
- ア 年が開けて新しい一年が始まる。
- イ 窓（まど）を開けて空気を入れかえる。
- ウ バケツの中の水をたらいに開ける。

(2) 周り
- ア 木の周りの長さをはかる。
- イ 母とわたしは年がふた周りちがう。
- ウ 周りくどい言い方をやめる。

(3) 説く
- ア 本番前の緊張（きんちょう）を説きほぐす。
- イ もつれた糸を根気よく説く。
- ウ 事情をくわしく説いてきかせる。

(4) 挙げる
- ア 部屋の温度を挙げる。
- イ けっこん式を挙げる。
- ウ スピードを挙げる。

3 〈同訓異字〉

次の□にあてはまる漢字を書きなさい。

(1) カエる
- ① 学校から家に□る。
- ② 品物が持ち主の手に□る。

(2) ハカる
- ① 百メートル走のタイムを□る。
- ② 体重を□る。
- ③ 家の前の道路のはばを□る。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日が落ちるのを待って、肝試しが始まった。山の中にある神社の、賽銭箱に貼り付けてあるセンター長が作ったお札を取ってくるというものだった。

枯れ葉を踏む音が大きくなって、山から開くんが飛び出してきた。

「取ったぞ！」

①まるで金メダルみたいにみんなの前にお札をかざした。開くんの体からはプンッと汗と山の匂いがたち上った。

「おー、さすが六年生やなあ。よしっ、次はだれが行くんや」

松つぁんの問いかけに、

「はいっ！」

ぼくはまっすぐ腕を突き上げた。どうせ行くんだ。だったら早いほうがいい。ぐずぐずしてたらよけいにこわくなる。ぎゅっ。

②両腕にすがっている雄大とたくとの手に力がこもった。頼りにされてると思うと、武者ぶるいが出る。

「よしっ。じゃ、行ってこい」

センター長がぽんとぼくの肩をたたいた。

団子状態のぼくたちは、[　]山道に足を踏み入れた。懐中電灯は雄大が持っている一本きりだ。そいつを右へ左へ忙しく動かすから、肝心の足元が暗くて見えない。おまけに浮かび上がる木のシルエットがガイコツみたいでこわかった。

「やめえや。足元照らせ」

声を上ずらせたとたん、

「ホーッ」

山に大きな鳥の声がこだました。ビクリとぼくたちの足がとまる。

「壮くん、歌を歌いながら行こう。『あるう日、森の中、松つぁんにであったぁー』」

たくとが拾った枝をふりまわしながら「松つぁんの歌」を歌い出した。ぼくと雄大も続いた。

『松つぁんが、言うことにゃあー、頭がー、寒いからー、ヅラをくださいなー、ヅラをくださいなー』

歌ってるうちに森の暗さも気にならなくなってきた。頭に浮かぶのは、「こら、おかしな歌、歌うな」という松つぁんの怒った顔。③雄大の持つ懐中電灯の明かりも楽しそうなリズムを刻んでいる。大声を張り上げながら進むぼくらの目に、苔むして傾きかけた木の鳥居がぼんやり浮かんで見えた。

「……着いた」

三人一緒におそるおそる足を踏み入れる。ザクッと砂利が鳴った。

「壮くん、こわい」

たくとが足をすくませる。

「だ、大丈夫だよ。開くんも行ったんだから」

そう言うぼくの声もふるえていた。

④バサバサバサ。すぐ近くの木の枝から大きな鳥が飛びたった。

「こわいよお」

雄大が取り落とした懐中電灯を急いで拾った。

月が出ていた。まんじゅうをまっぷたつに割ったような半月だ。暗い森を背景にうすぼんやりと神社が浮き上がっていた。目をこらすと拝殿の真ん中あたりでなにか白いものが風にゆれている。

「お札だ！」

⑤言うと同時に、ぼくらは砂利を蹴って駆け出した。

（八束澄子『ぼくらの山の学校』ＰＨＰ研究所）

問一 ——線①「まるで金メダルみたいにみんなの前にお札をかざした」とありますが、この表現からわかる開くんの心情にあてはまるものを次の**ア**～**カ**から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 達成感
イ 孤独感
ウ 疲労感
エ はずかしさ
オ ほこらしさ
カ 物足りなさ

[　]・[　]

問二 ——線②「両腕にすがっている雄大とたくとの手に力がこもった」とありますが、このときの雄大とたくとの心情としてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア 頼りない自分たちに失望している。
イ 何もできずにあきらめている。
ウ 自信がみなぎり満足している。
エ こわさと不安で緊張している。

問三 [　]にあてはまることばとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア うきうき
イ こわごわ
ウ ずかずか
エ じりじり

[　]

問四 ——線③「雄大の持つ懐中電灯の明かりも楽しそうなリズムを刻んでいる」とありますが、ここから三人についてわかることとしてもっともよいものを次の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

ア こわがる気持ちがかえって強まってきた。
イ 肝試しを早く終わらせねばとあせってきた。
ウ 暗い森の中をこわがる気持ちがうすれてきた。
エ もっと肝試しをしたい気持ちが高まってきた。

[　]

問五 ——線④「バサバサバサ。すぐ近くの木の枝から大きな鳥が飛びたった」とありますが、この様子に雄大がおどろいたことはどんなことからわかりますか。次の[　]にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

雄大が懐中電灯を[　　]こと。

問六 ——線⑤「言うと同時に、ぼくらは砂利を蹴って駆け出した」とありますが、このときの三人の心情としてあてはまらないものを次の**ア**～**エ**から一つ選び、記号で答えなさい。

ア このまま自分の家に帰ってしまいたい。
イ 暗い森の中にはこれ以上いたくない。
ウ やっとお札が見つかって、うれしい。
エ 少しでも早くお札を取りに行きたい。

[　]